

公益財団法人日本バスケットボール協会
平成26年度 第10回理事会 議事録

日 時: 平成27年2月11日(水・祝) 13:00~15:25

場 所: JBAオフィス 8F会議室

出 席: <理事>

梅野哲雄、丸尾充、西川和人の各副会長、河内敏光、熊谷秀樹、倉石平、小坂悦夫、佐々木三男、
鮫島俊秀、品田奥義、庄司義明、高橋雅弘、西井歳晴、野村俊郎、林直樹、原田茂、福井晴次、
堀井幹也、森野和泰、吉田長寿の各理事

<監事>

榊原みどり、高原洋太郎の各監事

<特任委員>

小倉恭志、片山正明、坂本昌彦の各特任委員

欠 席: 星芳樹専務理事、青木隆、岸本和巳、橋本信雄、吉田利治の各理事、内山英司特任委員

オブザーバー: 山見博康裁定委員会委員長

議 題

- (1) 暴力行為等に関する裁定委員会の答申について
- (2) 稟議・起案決裁規程の運用について
- (3) 2015年度事業計画・収支予算について
- (4) 臨時評議員会の開催について
- (5) 大会要項について
- (6) 大会予算について
- (7) 日本デフバスケットボール協会との共催大会の変更について
- (8) 3X3基本規程の制定について
- (9) 特別委員会の設置について

1. 定足数の報告

吉田(長)理事より出席者数の報告があり、定款32条に基づき、理事現在数(25名)の過半数の出席数(出席:20名)を満たすため、会議成立が宣せられた。

また、星専務理事が体調不良により当面の間休職することになったことが報告された。

2. 挨拶

梅野副会長(会長職務代行)より開会の挨拶があった。

3. 議事

議長は梅野副会長(会長職務代行)が務めた。

(1) **暴力行為等に関する裁定委員会の答申について**（吉田(長)理事)

熊本県の高校(女子)の外部指導者による暴力行為について、裁定委員会における事実確認の結果、基本規程第168条第2項第2号に基づき、対象者を譴責とする答申が出された。審議の結果、裁定委員会の答申を尊重し、譴責処分を科すことが承認された。

また、桜宮高校の事件から2年が経過し、まだ暴力行為等が発生していることから、改めてアンケートの実施や啓発活動などを実施していくことが確認された。

<承認>

(2) **稟議・起案決裁規程の運用について**（吉田(長)理事)

星専務理事の体調不良による休職に伴い、稟議・起案決裁規程における専務理事決裁事案については、会長または会長職務代行として運用することが提案され、原案通り承認された。

<承認>

(3) **2015年度事業計画・収支予算について**（吉田(長)理事)

資料に基づき、2015(平成27)年度事業計画(案)、活動計画書(案)および収支予算(案)が提案された。

今期の決算着地見込みについて、タスクフォース関連費用見込みを含めて現時点では最終収支がマイナス9百万円、ただし、まだ反映していないウインターカップやオールジャパンの入場料収入増が見込まれることが報告された。

2015年度は通常の事業内容のほか、タスクフォース(FIBA)からの提案を受け入れて実行していく準備をしていくことに加え、予算編成については、今年度の修正予算をベースにして、東京オリンピックを含む選手強化活動(男女)を重点事業とし、さらにタスクフォース関連費用の概算費用を見込んだ結果、総収入1,628百万円、総支出1,633百万円、収支マイナス5百万円となった。なお、タスクフォース関連費用については、まだ全体計画が確認できていないことから費用超過が見込まれる場合には補正または修正予算にて対応することが補足された。審議の結果、原案通り承認され、3月の評議員会に提案することとなった。

<承認>

(4) **臨時評議員会の開催について**（吉田(長)理事)

2015(平成27)年度事業計画・収支予算および基本規程の改定についての審議、タスクフォース関連についての報告を目的として3月14日に臨時評議員会を開催することが提案され、原案通り承認された。

<承認>

(5) **大会要項について**（庄司理事)

「内閣総理大臣杯争奪 第43回日本車椅子選手権大会」、「厚生労働大臣杯争奪 第28回日本車椅子ツイン選手権大会」および「日本スポーツマスターズ2015石川大会」の大会要項が提案され、原案通り承認された。

<承認>

(6) **大会予算について**（庄司理事)

第28回都道府県対抗ジュニア大会および第46回全国ミニ大会の実行予算案が提案され、原案通り承認された。

<承認>

(7) **日本デフバスケットボール協会との共催大会の変更について** (吉田(長)理事)

日本デフ協会からの申し入れを受け、日本デフ協会との共催大会を新設する「全日本デフ選手権大会」(従来の大会は引き続き交流等をメインに継続して実施。新規大会は東日本、西日本からの勝ち上がり方式としてより競技性を高める)に変更することが提案され、原案通り承認された。

<承認>

(8) **3x3基本規程の制定について** (吉田(長)理事)

3x3組織および運営、競技者・オーガナイザーの登録、各種大会等に関する基本原則を定めるため、3x3基本規程の制定およびその内容が提案された。また、3x3の普及、競技者の拡大を図る観点から、登録料については、平成27年度まではJBAの登録料は無料(規程上は1,000円、5対5登録者は半額)、都道府県協会の登録料はJBA登録料の規定額を上限に設定できることとすることが補足され、原案通り承認された。

<承認>

(9) **特別委員会の設置について** (吉田(長)理事)

ミニからシニアまでの国内大会の再構および大会運営・管理組織の再編を検討するため特別委員会を設置すること、委員会の構成メンバー、内容が多岐にわたることから委員会の中に分科会を設置し、それぞれに関連するメンバーに参加を依頼していくこと、第1回委員会にてメンバー、活動計画を検討することなどが提案され、原案通り承認された。

<承認>

4. 報告事項

(1) **タスクフォース関連について** (吉田(長)理事)

第1回タスクフォース会議およびその後開催された記者会見の内容については既にメールで報告しているとおりであること、タスクフォースに関する発信はチェアマンからのみとなること、緊急対策本部ではJBAとしてやるべきこと等について議論をしていることが報告された。また、緊急対策本部副本部長の森野理事からガバナンス強化に関し、FIBAの規約、文部科学省から出されているものなど含めたガバナンスに関する勉強会の開催や各組織のあり方等について協議、検討するワーキンググループの設置を検討していることが補足された。尚、ワーキンググループのメンバーについては緊急対策本部に一任することが確認された。

(2) **一般報告** (吉田(長)理事)

2015年1月の諸会議等の開催実績が報告された。

(3) **総務部** (吉田(長)理事)

次回理事会の開催予定、最新のチーム加盟数・競技者登録数の状況、日本スポーツグランプリについては候補者がいなかったため推薦を見送ること、JOCから資格停止処分に伴い、交付金の減額(平成26年度選手強化交付金の20%)、勧告の処分が通知されたこと、bjリーグの外国人選手が大麻取締法違反の容疑で逮捕されたことおよびそれに伴うbjリーグの対応等が資料に基づき報告された。

(4) **強化本部** (堀井理事)

日本代表活動における情報収集、分析の充実および情報分析技術の普及を目的としてテクニカルスタッフのインターンシップ募集を行うことが報告された。

(5) **男子強化部** (堀井理事)

男子ユニバーシアード日本代表チーム、男子U-18日本代表チーム、男子U-16日本代表チームの3月までの強化合宿スケジュールおよびメンバーが報告された。

(6) **女子強化部** (高橋理事)

女子ユニバーシアード日本代表チームの3月までの強化合宿スケジュールおよびメンバーが報告された。

(7) **事業戦略部** (吉田(長)理事)

TeamJBAの3x3登録機能追加および運用スケジュールが報告された。

(8) **国際部** (吉田(長)理事)

FIBAから国内の高校に所属している外国籍選手に関する調査依頼があり、当該校の協力を得て回答を提出したことが報告された。

(9) **競技会委員会** (庄司理事)

来年度の競技日程の一部変更、「第28回都道府県対抗ジュニア大会」の組み合わせ、ウインターカップおよびオールジャパンの大会結果と決算概算等が報告された。

(10) **エンデバー委員会** (佐々木理事)

今年度のU-13、U-18ブロックエンデバーの全スケジュール、各種会議等の開催実績及び今後の予定が報告された。

(11) **指導者育成委員会** (倉石理事)

JBA公認B級コーチ養成講習会専門科目の開催概要、第1回JBAコーチカンファレンスの開催要項、大会開催時に不測の事態でコーチが不在となった場合の対応方法が資料に基づき報告された。

(12) **国体委員会** (野村理事)

愛媛国体に関する打合せの実施、岩手国体の会場視察について資料に基づき報告された。

(13) **裁定委員会** (吉田(長)理事)

福井県の高校における体罰について裁定委員会に付託したことが報告された。

(14) **その他**

・東京オリンピック・パラリンピック関連について (吉田(長)理事)

2020年東京オリンピックの事前キャンプに関する内容が資料に基づき報告された。

・NBL関連について (丸尾副会長)

和歌山トライアンズについて、和歌山県協会、行政、地元企業、ファンの協力を得て、現在は和歌山県協会を主体とした運営体制で今シーズン存続することとなったこと、来シーズンについては未定であるが存続に向けて努力を続けていることが報告された。

以上